

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター一年報
(第8号)

2014年版

'14 ANNUAL REPORTS
TOTTORI UNIVERSITY AVIAN ZOOONOSIS RESEARCH CENTER



鳥取大学農学部
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
AVIAN ZOOONOSIS RESEARCH CENTER
(AZRC)

目 次

1. ご挨拶	1
2. 人員構成と各研究部門における研究内容	2
(1) 病態学研究部門	2
(2) 疾病管理学研究部門	3
(3) 分子疫学研究部門	3
3. 研究活動	5
(1) 病態学研究部門	5
著 書	5
原著論文	5
学会発表	5
(2) 疾病管理学研究部門	7
著 書	7
原著論文	7
総 説	8
学会発表	8
(3) 分子疫学研究部門	9
著 書	9
原著論文	9
総 説	9
学会発表	10
4. その他の研究活動	12
(1) 国際共同研究・共同調査	12
5. 広報活動	12
(1) 講演等	12
(2) 新聞雑誌等掲載	13
(3) TV取材出演等	16
6. 社会貢献	16

1. ご挨拶

センター長 伊藤 壽啓

本年4月、国内では3年ぶりに、高病原性鳥インフルエンザが熊本県下の養鶏場で発生しました。幸い、現場における早期発見、早期報告がなされ、それに続く殺処分等の迅速な防疫対応も功を奏して、発生はその初発例1例のみに抑えられましたが、お隣の韓国では当該ウイルスによる過去最大規模の大流行となり、現在も尚終息が望めない状況となっています。

当センターは今年、開設8年目を迎えておりますが、設置当初から農林水産省および環境省との連携のもと、国内を中心にその鳥インフルエンザの疫学調査と防疫対策に貢献して参りました。先の熊本での発生時におきましても、センター教員が農林水産省の疫学調査チームや環境省の専門家会議に参加し、科学的な立場から助言や調査協力を行っております。

また一昨年から継続実施しております農林水産省レギュラトリーサイエンス事業におきましても、今回の発生を受けて、養鶏場へのウイルス運搬者としての野生動物のリスク評価について、発生農場での追加調査を実施しております。さらに、今年8年目になります文部科学省の感染症研究国際ネットワーク推進プログラムにおきましても、引き続き本センターが中心となって、北ベトナムにおける H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの抗原変異の実態を明らかにすべく、国際共同疫学調査を実施しております。

中国、ロシア、韓国、台湾等わが国を取り巻く国々には今尚、ウイルスが存在しており、わが国は常にそれらのウイルスの国内侵入という脅威にさらされ続けています。したがって、我が国は決してそれらに対する警戒を緩める訳にはいかない状況にあります。

本年4月1日付で当センター病態学研究部門に富岡幸子特命助教が着任致しました。さらに強化された研究体制で、本センターはこれからも我が国唯一の鳥類感染症の専門機関として、鳥由来人獣共通感染症の制圧に向け、スタッフ一同尚一層精進して参りたいと存じます。引き続き関係の皆様方のご支援・ご協力を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

2. 人員構成と各研究部門における研究内容

(1) 病態学研究部門

- ・野鳥の生息状況・飛翔路調査
- ・野鳥の病原体保有状況調査
- ・異種動物間伝播機序の研究

教授 山口 剛士（平成19年6月1日着任～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（海外研究拠点を活用した新規研究課題）における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に参加している。人獣共通感染症の伝播と拡散における野生鳥類の果たす役割について研究を行っている。

特任教授 小野 悦郎（平成17年4月～平成19年3月専任教授、平成19年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（海外研究拠点を活用した新規研究課題）における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に業務主任者として参加している。また、鳥インフルエンザ抵抗性動物の開発研究を行っている。

講師 笛吹 達史（平成20年4月着任～平成22年3月助教、平成22年4月～現在）

インフルエンザウイルスについて、ウイルス感染動物における免疫誘導機構、鳥種・動物種による病原性の違いに関わる宿主要因をテーマに研究を行っている。鳥類から哺乳類への伝播機序の解明を目指す。また、ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測に参加。

特命助教 富岡 幸子（平成26年4月着任～現在）

鳥由来人獣共通感染症の病理発生メカニズムを明らかにするため、ウイルスタンパク質やそれらと相互作用する宿主分子の機能解析を行っている。また、鳥インフルエンザ抵抗性動物の開発研究を行っている。

(2) 疾病管理学研究部門

- ・病原性獲得変異の研究
- ・病原微生物の感受性研究
- ・新規抗微生物活性物質の研究

教授 村瀬 敏之（平成17年4月～平成18年3月助教授、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（海外研究拠点を活用した新規研究課題）における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に分担研究者として参加している。また、鶏卵鶏肉を汚染するサルモネラの生態、病原性および薬剤感受性に関する調査研究を行っている。

准教授 尾崎 弘一（平成19年7月着任～平成24年12月助教、平成25年1月～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスに対するワクチン開発を行っている。また、ウイルスタンパクに対する抗体を応用して CNT バイオセンサーの開発、広範囲なウイルス増殖抑制活性を持つ抗体の探索とその応用、分子レベルでの抑制メカニズムを追っている。

特任教授 大槻 公一（平成17年4月～平成18年3月教授、センター長、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症に関する海外研究拠点形成プログラム」（文部科学省）により長崎大学熱帯医学研究所がベトナムに形成した拠点において、研究協力者として、同国の野鳥の鳥インフルエンザウイルス汚染状況を調査している。また、抗ウイルス性を持つ新素材「加工ドロマイト」の開発研究を行っている。

(3) 分子疫学研究部門

- ・分子疫学情報のデータベース化
- ・遺伝情報交換ネットワークの構築

教授 伊藤 壽啓（平成17年4月～現在、平成18年4月～現在、センター長）

鳥由来人獣共通感染症としての鳥インフルエンザを主な研究対象として、人の新型インフルエンザウイルス出現予測のための宿主域制限因子の解明や、国内に飛来する渡り鳥を中心とした野鳥のウイルス保有状況調査、野生水禽由来インフルエンザウイルスの鶏に対する病原性獲得機構の解明等の研究を実施している。

准教授 伊藤 啓史（平成17年4月～現在）

鳥インフルエンザウイルスおよびニューカッスル病ウイルスの宿主域、病原性に関する研究を行っている。また、各種機関や企業との連携、共同研究により野鳥の鳥インフルエンザウイルス保有状況の調査や抗鳥インフルエンザウイルス素材、製品に関する研究を行っている。

講師 曾田 公輔（平成23年6月着任～平成25年3月専任助教、平成25年4月～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスの各種野鳥および家禽に対する病原性とその疫学的意義を明らかにすると共に、インフルエンザウイルスの宿主である水禽からニワトリにウイルスが伝播するために関与する分子基盤の解明を試みている。また、ベトナムの家禽における鳥インフルエンザウイルスサーベイランスを継続的に行っている。

（平成27年3月31日現在）

3. 研究活動

(1) 病態学研究部門

著 書

- 1) 山口剛士: 展示動物の飼養及び保管に関する基準. *動物衛生学 : コアカリ*, pp.91-96, 獣医衛生学教育研修協議会編, 文永堂出版, 東京, 2015 年.
- 2) 山口剛士: 伝染性ファブリキウス嚢病. *家禽疾病学*, pp.52-55, 鶏病研究会編, 第1版, 鶏病研究会, 東京, 2015 年.

原著論文

- 1) Tomioka Y, Morimatsu M, Nishijima K, Usui T, Yamamoto S, Suyama H, Ozaki K, Ito T, and Ono E: A soluble form of Siglec-9 provides an antitumor benefit against mammary tumor cells expressing MUC1 in transgenic mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 450 (1), 532-537, 2014.
- 2) Kocsis K, Knapp L, Gellért L, Oláh G, Kis Z, Takakuwa H, Iwamori N, Ono E, Toldi J, and Farkas T: Acetyl-l-carnitine normalizes the impaired long-term potentiation and spine density in a rat model of global ischemia. *Neuroscience*, 269, 265-272, 2014.
- 3) Chu TTH, Murano T, Uno Y, Usui T, and Yamaguchi T: Molecular detection of avian pathogens in poultry red mite (*Dermanyssus gallinae*) collected in chicken farms. *J Vet Med Sci*, 76, 1583-1587, 2014.

学会発表

- 1) 岡村萌黄, 石原亜美, 佐藤有里子, 矢野愛美, Truong Ha Thai, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤壽啓, 山口剛士: 2013-2014 年山陰地方の渡り鳥飛来地における野生水禽の鳥インフルエンザウイルスおよび鳥パラミクソウイルス保有状況調査. 第29回中国四国ウイルス研究会, 2014年6月, 山口市.

2) 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 次世代シーケンスによる H5N1 亜型鳥インフルエンザウイルス感染野鳥由来株の多型解析. 第 29 回中国四国ウイルス研究会, 2014 年 6 月, 山口市.

3) Usui T, Uno Y, Kato I, Fujimoto Y, Ito H, Ito T, and Yamaguchi T: "Generation of a highly pathogenic H7N6 subtype avian influenza virus from an avirulent isolate by serial intracerebral passage in quail and chickens", XVIth International Congress of Virology, Montreal, 2014 年, Canada.

4) 富岡幸子, 森松正美, 西島謙一, 笛吹達史, 山本沙代, 陶山晴香, 尾崎絹代, 伊藤壽啓, 小野悦郎: シアル酸結合レクチン Siglec-9 可溶性分子は MUC1 発現腫瘍の増殖を抑制する. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

5) 木下佳紀, 雨森貴郁, 中村雄哉, 藪田淑予, 堀田こずえ, Le Quynh Mai, 曾田公輔, 笛吹達史, 山口剛士, 山城哲, 小野悦郎, 伊藤壽啓, 大槻公一, 高桑弘樹: ベトナム北部の野生のカモから分離された H5N6 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの解析. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

6) 北村夕子, 村野多可子, 小川恵実香, 田中亜依, 西本鉄平, Chu Thi Thanh Huong, 笛吹達史, 山口剛士: ワクモ *Dermanyssus gallinae* プロテインジスルフィドイソメラーゼ(PDI)遺伝子のクローニングと発現解析. 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

7) 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 次世代シーケンスによる野鳥に感染した H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの多型解析. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

8) 曾田公輔, 笛吹達史, 尾崎弘一, 丸田麻代, 柏原幸枝, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: 「ミヤマガラス (*Corvus frugilegus*) に対する H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの病原性」, 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 2014 年 11 月, 横浜市.

9) 宇野有紀子, 曾田公輔, 笛吹達史, 伊藤啓史, 尾崎弘一, 村瀬敏之, 山口剛士, 安田二郎, 伊藤壽啓: 「H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス感染におけるチョウゲンボウの病態」, 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 2014 年 11 月, 横浜市.

10) 北村夕子, 田中亜依, 宇野有紀子, Trung Ha Thai, 谷川 力, 笛吹達史, 山口剛士: 国内養鶏場におけるクマネズミ, ドブネズミおよびハツカネズミの分布状況調査. 第 67 回日本衛生動物学会大会, 2015 年 3 月, 金沢市.

11) 田中亜依, 村野多可子, 小川恵実香, 北村夕子, 西本鉄平, Chu Thi Thanh Huong, 森田剛仁, 笛吹達史, 山口剛士: ワクモ *Dermanyssus gallinae* 吸血に対する鶏皮膚局所における宿主免疫応答の解析. 第 67 回日本衛生動物学会大会, 2015 年 3 月, 金沢市.

12) 北村夕子, 村野多可子, 小川恵実香, 田中亜依, 西本鉄平, Chu Thi Thanh Huong, 笛吹達史, 山口剛士: ワクモ *Dermanyssus gallinae* プロテインジスルフィドイソメラーゼ 2 遺伝子の同定と各発育ステージにおける発現状況解析. 第 67 回日本衛生動物学会大会, 2015 年 3 月, 金沢市.

13) 笛吹達史, 曾田公輔, 富岡幸子, 尾崎弘一, 伊藤啓史, 村瀬敏之, 田中和之, 谷川 力, 伊藤壽啓, 山口剛士: 養鶏場に生息するクマネズミ, ドブネズミおよびハツカネズミの H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスに対する感受性の評価. 第 67 回日本衛生動物学会大会, 2015 年 3 月, 金沢市.

(2) 疾病管理学研究部門

著 書

1) 大槻公一: Q20. 中国の H7N9 が日本に侵入している可能性は. *インフルエンザ診療ガイド* 2014-2015, 菅谷憲夫編著, 日本医事新報社, 東京, 2014 年.

2) 大槻公一: 伝染性気管支炎. *鳥の病気: カラーマニュアル*, 第 8 版, 鶏病研究会編, 鶏病研究会, 東京, 2014 年.

原著論文

1) Yano S, Amano E, Katou A, Taneda I, Tsutsui T, and Murase T: Intestinal carriage and excretion of *Campylobacter jejuni* in chickens exposed at different ages. *J Food Prot*, 77, 1184-7, 2014.

2) Saishu N, Ozaki H, and Murase T: CTX-M-type extended-spectrum β -lactamase-producing *Klebsiella pneumoniae* isolated from cases of bovine mastitis in Japan. *J Vet Med Sci*, 76, 1153-6, 2014.

総 説

1) 大槻公一: 語る 未知の分野への挑戦—鳥インフルエンザ研究開始時の思い出. *食品機械装置*, 51(1), 41, 2014 年.

2) 大槻公一: 中国で発生が止まらない鳥インフルエンザについて. *鶏の研究*, 89(3), 16-20, 2014 年.

3) 大槻公一: 中国他, アジアの国々で 2014 年に発生している鳥インフルエンザ. *鶏の研究*, 89(4), 16-22, 2014 年.

4) 大槻公一: 鳥インフルエンザウイルス—その生態, 新型インフルエンザウイルスへ変異のメカニズム, 農場から食卓までの安全管理—(教育講演). *日食微生物会誌*, 31(1), 20-27, 2014 年.

5) 大槻公一, 高桑弘樹, 藪田淑予: 東アジアで発生が起きている高病原性鳥インフルエンザ(H5N8). *京産大先端科学技術研究所所報*, 13, 55-68, 2014 年.

6) 大槻公一, 高桑弘樹, 藪田淑予: 鳥インフルエンザの現況. *蹄と研*, 91(12), 1537-1545, 2014 年.

学会発表

1) 尾崎弘一, 松本航平, 西川諒, 村瀬 敏之: 鶏大腸菌症発症における ColV プラスミドの役割. 第 157 回日本獣医学会, 2014 年 9 月, 札幌市.

2) 曾田公輔, 笛吹達史, 尾崎弘一, 丸田麻代, 柏原幸枝, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: ミヤマガラス (*Corvus frugilegus*) に対する H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの病原性. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

(3)分子疫学研究部門

著 書

- 1) 伊藤壽啓: 第 2 章 ウイルス性人獣共通感染症. 9.インフルエンザ. 獣医公衆衛生学 II, pp.23-24, 初版, 獣医公衆衛生学教育研修協議会編, 文永堂出版, 東京, 2014 年.
- 2) 伊藤啓史: 第 2 章 1-5 ニューカッスル病, 獣医公衆衛生学 II, p27, 獣医公衆衛生学教育研修協議会編, 文永堂出版, 東京, 2014 年 4 月.

原著論文

- 1) Tomioka Y, Morimatsu M, Nishijima K, Usui T, Yamamoto S, Suyama H, Ozaki K, Ito T, and Ono E: A soluble form of Siglec-9 provides an antitumor benefit against mammary tumor cells expressing MUC1 in transgenic mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 450(1), 532-537, 2014.
- 2) Umali DV, Ito H, Shirota K, Katoh H, and Ito T: Characterization of complete genome sequence of genotype VI and VII velogenic Newcastle disease virus from Japan. *Virus Genes*, 49(1), 89-99, 2014.
- 3) Watanabe Y, Ito T, Ibrahim MS, Arai Y, Hotta K, Hoang VMP, Nguyen LKH, Le QM, Soda K, Yamaoka M, Poetranto ED, Wulandari L, Hiramatsu H, Daidoji T, Kubota-Koketsu R, Sriwilaijaroen N, Nakaya T, Okuno Y, Takahashi T, Suzuki T, Ito T, Hotta H, Yamashiro T, Hayashi T, Morita K, Ikuta K, and Suzuki Y: A novel immunochromatographic system for easy-to-use detection of group 1 avian influenza viruses with acquired human-type receptor binding specificity. *Biosens Bioelectron*, 65C, 211-219, 2014.

総 説

- 1) 伊藤壽啓: アジアの鳥インフルエンザ事情. 鶏病研究会報(増刊号), 50, 1-6, 2014 年.

2) 伊藤壽啓, 曾田公輔: 国内情報: 高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり. 畜産技術, 平成 26 年 5 月号, 25-28, 2014 年.

学会発表

1) 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 次世代シーケンスによる野鳥に感染した H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの多型解析. 第 29 回中国四国ウイルス研究会, 山口大学, 2014 年 6 月, 山口市

2) 岡村萌黄, 石原亜美, 佐藤有里子, 矢野愛美, Truong Ha Thai, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤壽啓, 山口剛士: 2013-2014 年山陰地方の渡り鳥飛来地における野生水禽の鳥インフルエンザウイルスおよび鳥パラミクソウイルス保有状況調査. 第 29 回中国四国ウイルス研究会, 山口大学, 2014 年 6 月, 山口市.

3) 西岡奈々江, 常城朱乃, 曾田公輔, 小林直哉, 上田健司, 田平弘基, 景山誠二, 中島廣光, 石原 亨: 薬用植物エキナセアからの抗インフルエンザ活性物質の探索. 第 28 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, 2014 年 7 月, 鳥取市.

4) Soda K, Hotta K, Toyoumi S, Uno Y, Nagai Y, Le QM, Phuong SL, Ozaki H, Yamashiro T, and Ito T: Avian influenza virus surveillance in duck farms and wet markets in Vietnam. International Union of Microbiological Societies Congresses 2014, Jul. 2014, Montreal, Canada.

5) 木下佳紀, 雨森貴郁, 中村雄哉, 藪田淑予, 堀田こずえ, Le Quynh Mai, 曾田公輔, 笛吹達史, 山口剛士, 山城哲, 小野悦郎, 伊藤壽啓, 大槻公一, 高桑弘樹: ベトナム北部の野生のカモから分離された H5N6 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの解析. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

6) Del Valle Fletcher, Dennis Villaseñor Umali, 白田一敏, 幸田知子, 伊藤壽啓, 加藤宏光: Contamination of Clostridium botulinum from layer feeds in Eastern Japan from 2010 to 2013. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

7) 曾田公輔, 笛吹達史, 尾崎弘一, 丸田麻代, 柏原幸枝, 伊藤啓史, 伊藤壽啓:

ミヤマガラス (*Corvus frugilegus*) に対する H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの病原性. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

8) 富岡幸子, 森松正美, 西島謙一, 笛吹達史, 山本沙代, 八木田晴香, 尾崎絹代, 伊藤壽啓, 小野悦郎: シアル酸結合レクチン Siglec-9 可溶性分子は MUC1 発現腫瘍の増殖を抑制する. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

9) 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 次世代シーケンスによる野鳥に感染した H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの多型解析. 第 157 回日本獣医学会学術集会, 2014 年 9 月, 札幌市.

10) 曾田公輔, 笛吹達史, 尾崎弘一, 丸田麻代, 柏原幸枝, 伊藤啓史, 伊藤壽啓: ミヤマガラス (*Corvus frugilegus*) に対する H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの病原性. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜, 2014 年 11 月, 横浜市.

11) 宇野有紀子, 曾田公輔, 笛吹達史, 伊藤啓史, 尾崎弘一, 村瀬敏之, 山口剛士, 安田二郎, 伊藤壽啓: H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスのチョウゲンボウにおける感染病態. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜, 2014 年 11 月, 横浜市.

12) Soda K, Hotta K, Ung THT, Toyoumi S, Uno Y, Nagai Y, Usui T, Takakuwa H, Le QM, Ito H, Ozaki H, Ono E, Murase T, Yamaguchi T, Otsuki K, and Ito T: Avian Influenza virus surveillance in duck farms and wet markets in Northern Vietnam. The phase-end seminar for the “Collaborative study on emerging and re-emerging infectious diseases in Viet Nam: Enhancement of research capacity phase II, 2011-2015” project (closed meeting). 2015 年 1 月, Ha Noi, Vietnam.

13) 北村夕子, 田中亜依, 宇野有紀子, Truong Ha Thai, 谷川 力, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 尾崎弘一, 村瀬敏之, 伊藤壽啓, 山口剛士: 国内養鶏場におけるクマネズミ、ドブネズミおよびハツカネズミの分布状況調査. 第 67 回日本衛生動物学会大会, 金沢大学, 2015 年 3 月, 金沢市.

14) 笛吹達史, 曾田公輔, 富岡幸子, 尾崎弘一, 伊藤啓史, 村瀬敏之, 田中和之,

谷川 力, 伊藤壽啓, 山口剛士: 養鶏場に生息するクマネズミ、ハツカネズミおよびドブネズミの H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスに対する感受性の評価. 第 67 回日本衛生動物学会大会, 金沢大学, 2015 年 3 月, 金沢市.

4. その他の研究活動

(1) 国際共同研究・共同調査

- 1) 学術交流協定締結(大韓民国国立動物検疫科学院)平成 16 年～現在
- 2) 学術交流協定締結(大韓民国建国大学)平成 17 年～現在

5. 広報活動

(1) 講演等

- 1) 大槻公一: 鳥インフルエンザ防疫対策の確立. 平成 26 年度愛知県養鶏協会通常総会, 2014 年 6 月 20 日, 名古屋市.
- 2) 大槻公一: 社会生活を脅かす感染症, 特に鳥インフルエンザ, 口蹄疫, エボラ出血熱などについて. 平成 26 年度近畿農政局重要家畜伝染病防疫実務演習, 2014 年 10 月 9 日, 京都市.
- 3) 伊藤壽啓: 鳥インフルエンザの最近の状況について. 平成 26 年度九州地区鶏病技術研修会特別講演, 2014 年 10 月, 福岡市.
- 4) 伊藤壽啓: アジアの鳥インフルエンザ事情. 平成 26 年度秋季全国鶏病技術研修会, 2014 年 10 月, 静岡市.
- 5) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザの国内発生とその対策について. 第 3 回鳥インフルエンザシンポジウム, 2014 年 10 月, 宮崎市.
- 6) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの現状. 大阪府畜産会地域自衛防疫研修会, 2014 年 11 月 18 日, 大阪市.

7) 大槻公一: 最近発生している鳥インフルエンザの多様化ー近隣諸国や本年度熊本県の発生事例を中心に. (群馬県西部農業事務所), 2014 年 11 月 27 日, 高崎市.

8) 伊藤壽啓: アジアの鳥インフルエンザに関する最近の知見. 平成 26 年度東海・北陸地区鶏病技術研修会特別講演, 2014 年 11 月, 津市.

9) 山口剛士: 野生動物による高病原性鳥インフルエンザウイルス伝播の可能性. 全国家畜保健衛生業績発表会, 2015 年 3 月, 東京都千代田区.

(2)新聞雑誌等掲載

H26. 4.13 鳥インフル 熊本で確認 国内で 3 年ぶり
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学教授) 日本農業

H26. 4.13 熊本で高病原性の鳥インフル発生 11 万羽殺処分へ
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学教授) 産経

H26. 4.14 熊本で鳥インフルを検出 韓国から飛来の可能性
11 万 2000 羽を殺処分
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学教授) 産経

H26. 4.14 鳥インフル: 専門家「韓国由来の可能性」農水省が対策本部
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学農学部教授
(公衆衛生学)) 毎日

H26. 4.14 熊本で鳥インフル 拡大防止へ 11 万羽を殺処分
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学教授) 日本経済

H26. 4.14 鳥インフル、熊本で発生=3 年ぶり
11 万羽を殺処分・韓国経由で侵入か・農水省
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学教授)
時事通信社, 日刊工業

H26. 4.14 熊本で鳥インフルエンザ 14 日中に 11 万 2000 羽を殺処分
(家きん疫病小委員会小委員長=伊藤壽啓鳥取大学教授)
スポーツ報知

- H26. 4.14 熊本で鳥インフル検出 2 養鶏場 11 万羽殺処分へ
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授) 東京
- H26. 4.14 鳥インフルエンザ Q&A どんな特徴? どう封じ込む? [熊本県]
(鳥取大伊藤壽啓教授(公衆衛生学)) 西日本
- H26. 4.15 養鶏 11 万羽殺処分 日本海
- H26. 4.15 鳥インフルエンザ 感染原因の究明を急げ
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授) 琉球新報
- H26. 4.15 熊本で鳥インフル 国内 3 年ぶり 11 万羽を殺処分
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授
(公衆衛生学)) 朝日
- H26. 4.18 鳥インフルの型 韓国と同タイプ 朝日
- H26. 5. 2 熊本・鳥インフル 教訓生きた初動の速さ 読売
- H26.11.15 近隣農場異常なし 安来で鳥インフル
「封じ込めが大切」 大槻公一鳥取大学特任教授現地入り 日本海
- H26.11.27 鳥取で高病原性鳥インフル検出 今季 3 例目 朝日
- H26.11.27 鳥インフル:鳥取で検出 カモ類のふんから 毎日
- H26.11.27 カモ類から鳥インフル検出 鳥取で採取のフンから
宮城のハクチョウ死骸は陰性 産経
- H26.11.27 鳥取のカモから鳥インフル ふんから検出 産経
- H26.11.27 鳥取県でも高病原性鳥インフルエンザ検出 今季 3 例目
ハザードラボ
- H26.11.28 鳥取市で鳥インフル 全養鶏場確認へ 日本海, 読売, 朝日, 毎日
- H26.11.28 鳥取市でも鳥インフル 高病原性 全国で今季 3 例目
(鳥取大農学部鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
山口剛士教授) 日本海
- H26.11.28 全養鶏業者の対応調査へ 鳥インフル
(鳥取大農学部山口剛士教授(獣医衛生学)) 読売
- H26.11.28 鳥取でウイルス検出 鳥インフル 国・県が監視強化 朝日

- H26.12.16 鳥インフル「早期に感染経路特定を」農水省が有識者会議で
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授) 産経
- H26.12.16 <鳥インフル> 養鶏農家の防疫措置徹底を提言・・・農水省小委
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学農学部教授
(公衆衛生学)) 毎日
- H26.12.17 宮崎の鳥インフル 防疫措置完了
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授)
農業協同組合
- H26.12.17 鳥インフル 県が注意喚起
(鳥取大農学部山口剛士教授(獣医衛生学)) 読売
- H26.12.17 宮崎の養鶏場で鳥インフル確認 4000羽処分
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授
(公衆衛生学)) 朝日
- H26.12.19 鳥インフル:宮崎で発生は中韓で流行のH5N8型
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学農学部教授
(公衆衛生学)) 毎日
- H26.12.20 延岡鳥インフルはH5N8型、韓国と同型ウイルス
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授) 読売
- H26.12.29 宮崎・鳥インフル:早期通報と防疫徹底を確認 農水省小委
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学農学部教授
(公衆衛生学)) 毎日
- H26.12.30 鳥インフルで処分開始＝山口県
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授)
時事ドットコム
- H26.12.30 鳥インフル:農水省【的確な初動対応を】山口で感染確認に
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学農学部教授
(公衆衛生学)) 毎日
- H26.12.30 宮崎、高まる危機感 鳥インフル「どこで起きても」
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授
(公衆衛生学)) 朝日

- H26.12.30 「防止策徹底を」 宮崎の鳥インフル 鳥取県が連絡会議
(鳥取大山口剛士教授) 朝日
- H27. 1.17 笠岡・鳥インフル、防疫措置も本格化
(家さん疫病小委員会小委員長＝伊藤壽啓鳥取大学教授
(公衆衛生学)) 読売
- H27. 1.17 一層の対策徹底確認 岡山・笠岡鳥インフル 防疫に協力 鳥取県
(鳥取大農学部山口剛士教授) 朝日
- H27. 1.23 国内で鳥インフル相次ぐ 「いつ発生しても・・・」
鳥大教授・山口剛士氏に聞く 検査、備え、警戒高める 日本海

(3)TV取材出演等

- H26. 4.14 めざましテレビ H5N8 亜型鳥インフルエンザ熊本での発生
家さん疾病小委員会記者会見 (伊藤壽啓) フジ
- H26. 4.14 News i 熊本の養鶏場で鳥インフルエンザ、11 万羽を殺処分
(鳥取大学農学部伊藤壽啓教授) TBS
- H26.11.27 野鳥の調査(鳥取大学が実施) 鳥インフルエンザのウイルス検出
強い毒性を持つ「H5N8」型と確認 NHK

6. 社会貢献

伊藤壽啓: 平成 9 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

伊藤壽啓: 平成 19 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生
部会家さん疾病小委員会委員長

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 鳥取県防災危機管理委員会委員

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 農林水産省高病原性鳥インフルエンザ疫学調査
チーム座長

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 とっとり防災危機管理研究会メンバー

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県新型インフルエンザ対策本部会議顧問

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県環境衛生研究所研究評価委員

伊藤壽啓: 平成 22 年度～現在 鳥取県食の安全推進委員会委員長

伊藤壽啓: 平成 22 年度～現在 農林水産省動物用インフルエンザワクチン国内製造用株選定委員会委員

伊藤壽啓: 平成 23 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会臨時委員

山口剛士: 平成 23 年度～現在 日本獣医師会野生動物対策検討委員会副委員長

山口剛士: 平成 23 年度～現在 鶏病研究会専門委員会委員

山口剛士: 平成 25 年度～現在 環境省鳥インフルエンザ等野鳥に係る専門家グループ会合メンバー

山口剛士: 平成 25 年度～現在 鳥取県食の安全推進会議座長

山口剛士: 平成 25 年度～現在 鳥取県防災顧問

村瀬敏之: 平成 20 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

村瀬敏之: 平成 26 年度 獣医事審議会委員

尾崎弘一: 平成 25 年度～現在 日本獣医師会微生物学分科会シンポジウム委員

伊藤啓史: 平成 26 年度 日本獣医学会評議委員

伊藤啓史: 平成 26 年度 鳥取県環境審議会委員

伊藤啓史: 平成 26 年度 環境省鳥インフルエンザウイルスのモニタリング調査

大槻公一: 平成 4 年度～現在 鳥取県食鳥肉衛生協会理事

大槻公一: 平成 9 年度～現在 鶏病研究会 理事

大槻公一: 平成 16 年度～現在 京都府高病原性鳥インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一: 平成 18 年度～現在 京都府・京都市新型インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府広域防疫対策センターに係る専門家チーム
委員

大槻公一：平成 23 年度～現在 近畿ブロック家畜病性鑑定ネットワーク協議会委員

大槻公一：平成 24 年度～現在 農林水産省 農林水産業・食品産業科学研究推進
事業(実用技術開発ステージ) 審査専門評価委員

曾田公輔：平成 26 年度 鳥取大学地域貢献支援事業「大山エキナセアの有効利用
を志向した生理活性物質の探索」

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 20 年度～現在 環境省野鳥に
おける高病原性鳥インフルエンザに係る検査

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 26 年度 農林水産省家禽農場
における高病原性鳥インフルエンザに係る検査 (H5N8 宮崎, 山口, 岡山 , 佐賀)

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター年報 第8号
(2014年版)

発 行 日 平成27年4月1日

編 集 ・ 発 行 国立大学法人鳥取大学農学部附属
鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
〒680-8553
鳥取市湖山町南4丁目101番地
(代表者) センター長 伊藤 壽啓
Tel. & Fax. 0857-31-5437

印 刷 中央印刷株式会社
〒689-1121
鳥取市南栄町34番地
Tel. 0857-53-2221 Fax. 0857-53-2201
